



頸南森林組合
大桃健汰 さん
年齢:23歳
林業経験:5年目

今までの自分の伐倒のクセが分かるとともに改善方法も丁寧に指導してもらえたのが良かったです。会社ではこのように時間をかけて練習することができないので、今後も日々の作業の中で意識していきたい。

株式会社中嶋木材
大滝学 さん
年齢:41歳
林業経験:7年目

新人のときのように緊張しながら体験しました。学ぶべきことがたくさんあるので研修時間がもう1日あると良いと思いました。実践で活かせることはもちろん、これから新人を指導する上でも良い経験になりました。



株式会社中嶋木材
佐藤和春 さん
年齢:39歳
林業経験:20年目

林業の仕事を始めてからもう20年になりますが、今回のような体験をするのは初めてです。長年、自分では意識していなかった伐倒時のクセが分かりました。改善方法も教えてもらったのでとても勉強になりました。



講師
水野雅夫 さん
基礎訓練なくして伐倒が上手になることはありません。安定したフォームが身に付くと精度も生産性も安全性も高い伐倒ができます。

練習に励んだ。「長年気が付かなかった伐倒時の悪いクセを知り、良い姿勢ややり方が理解できた」と体験者たち。「もっと練習したかった」という声も多く聞かれた。重大事故を防ぐために、今後、初心者チェーンソー伐倒についての基礎訓練への取り組みが大きな課題となりそうだ。

チェーンソーによる伐倒作業時の重大事故防止対策として「フォレストワーカーフロアアップ研修」ではチェーンソー伐倒トレーニングを実施。講師の水野雅夫さんが考案した伐倒練習機「MTW-01」を使い、チェーンソー伐倒技術習得のためのトレーニング「10Steps Method」を3人の受講者が体験した。「チェーンソーの伐倒が下手だから事故が起こるんです。つまり正確な伐倒を身に付けば事故を予防することができます」と水野さん。「傾斜地での伐倒は水平感覚が狂いやすくなる」と、デッキの傾斜角や丸太の傾きを変えながら伐倒の練習ができる世界初の装置「MTW-01」を使い、現場と同じ状況で練習することで、傾斜地でも正しいフォームを身に付けるトレーニングを行った。まず、受講者は構えにくい足場で木を倒す目標を決定してから受け口を作り、水野さんが一人一人のフォームとチェーンソーの操作をチェックする。作業後には作った受け口がどれだけ目標からはずれているかを測定し、原因を探る。その後もスライス、斜め切り、水平出し入れなど、10項目の反復

①傾斜をつけたデッキに丸太を固定。足場には麻の土嚢を重ねて構えにくい足場を演出 ②講師の水野さん(右)がフォームや水準器の結果を伐るときクセや改善方法をアドバイス ③実演の前に水野さんの講話を聞く ④水平に伐るためには持ち方、脇をしめる、足の位置など基本のフォームが重要 ⑤⑥指矩とレーザーポインターで作った受け口が目標からどれだけはずれているか測る ⑦10メートル先に置いたスケールの真ん中に木が倒れるように受け口を作る ⑧切断面の傾きは水準器アプリで測り、ガイドバーの先下がり角と進行方向への勾配角の合計を0に近づける ⑨受け口の斜め切りの切り終わりの傾きを測定



安全対策 事例②



令和元年11月11日・12日 上越市にて開催

伐倒練習機を使い、正確な伐倒技術を学ぶ

フォレストワーカーフロアアップ研修 チェーンソー伐倒トレーニング